

玉ネギ染めのTシャツを手にする土肥さん。1点ずつ微妙に色が違う手作りの品



栽培の歴史 肌で感じて

玉ネギ染めを 札幌の名産に

札幌の歴史を学ぶ市民グループ「札幌村文化センター」が、札幌を代表する農産物である玉ネギの皮で染めたTシャツや手工芸品などの商品化の準備を進めている。「ゆうパック(郵便小包)」での販売も計画しており、代表の土肥信子さんは「札幌の新しい名物に育てたい」と意欲を燃やしている。

グループは約一十年前、同市東区の主婦を中心に発足した。その後、会社員や大学教授も加わり、区内の古老を訪ね、かつての農業の様子や暮らしぶりを聞いて本にまとめるなどの活動を続けてきた。現在のメンバーは十三人。

国内での玉ネギ栽培は、札幌が発祥の地と言われる。土肥さんは、この歴史を広くPRし、玉ネギを札幌のシンボルに育てようと、玉ネギ製品の商品化に本格的に乗り出した。民間非営利団体(NPO)の法人格の認証も近く、受けられる見通しだ。

商品の目玉となるのは、

市民グループ

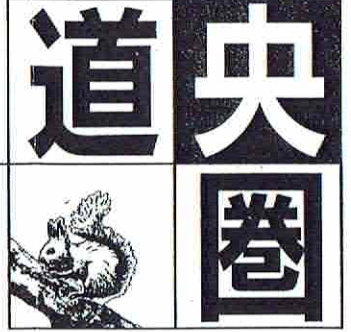
手工芸品も作製

東区内の農家から集めた玉ネギの皮の煮汁で染めたTシャツで、ぬくもりのある「道内外からの観光客に、肌で黄色が特色、一点ずつ異なる色合いのTシャツ」としての手づくり品で、当面は「ゆうパック」のみで販売する。このほか、郵便局で玉ネギ予約した人からは、ペットなど好きな写真を送ってもらい、子供たちに玉ネギ栽培のイラストにして胸や背にも展開する考えだ。さらに、二十枚の限定販売となる見込み。道郵政局に「ゆうパック」での販売を申請し、「ゆうパック」が秋に収穫されるのを待って、「ゆうパック」に同封して発送することになるという。

また、豊平区の観光名所とも検討している。

・羊ヶ丘展望台の土産物店 土肥さんは、「玉ネギのでも、玉ネギ染めの紙で作ったアローチなどの手工芸品を販売する計画で、早く良織のようには、全国に誇れる玉ネギ品に育てたい」と話している。

Tシャツ販売 ゆうパックで計画



地域の情報・ニュースは次の本・支社・総局へ

本社	社会部	☎011・210・5555
支社	社会部	☎0134・22・6171
支社	社会部	☎0143・22・5161
支社	社会部	☎0144・33・5331
支社	社会部	☎0126・22・0120